

【コラム】

「英国における COVID-19 とパブ」

機械振興協会経済研究所 特任フェロー 関 智宏

1. 英国のパブ文化と COVID-19 の影響

英国における伝統的でかつ「他の国に取り代わることのない」文化の 1 つに、大衆酒場のパブがある。パブの英国内の業界団体である英ビール・パブ協会（BBPA）によれば、英国国内には 2019 年時点で約 47200 軒のパブが存在している¹。利益をむしろ高額な地代や税金、自宅で飲むことのできる低アルコールのドリンクの普及など、さまざまな要因からパブを取り巻く環境は厳しくなっており、その数は年々減少している²。しかし、パブは資産価値の高い歴史的な建築物を活用した飲食業であり、そこで英国各地のクラフトビールや英国伝統の料理を食べることができるなど、多くの関連産業がその伝統と文化を支えている。パブでは、カウンター越しで飲み物を注文し、その場で会計を済ますキャッシュ・オン・デリバリーが中心となっている。パブにはテーブルや座席もあるが、立ち飲みで賑わい、それが人々の交流を促してきた。これがパブの醍醐味の 1 つであった。

世界に未だ震撼を与えている新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19 とする）は、英国におけるパブなど飲食店に多大な影響を及ぼしてきた。COVID-19 の影響の特徴の 1 つは、需要の急激な減退、あるいは消費行動や生活そのものに対する価値観の変化である。生活者が、COVID-19 に感染しないよう行動を自制すること、また政府によって行動が規制されることなどで、外食をしなくなる、あるいはできなくなることでパブなど飲食店は直接的な影響を受けてきた。ある報道によれば、BBPA のチーフ・エグゼクティブは、正確な数字を出すことは難しいとしながらも、COVID-19 の影響により、すでに 5%（約 2500 軒）のパブが閉店していると思われると述べ、またある不動産会社は、2020 年 9 月 1 日までの 34 週と 6 日の間に、300 以上のパブが永久的に閉鎖されたり、取り壊されたり、あるいは他の用途に転用されたりしていることが明らかとなったというコメントを発表している³。



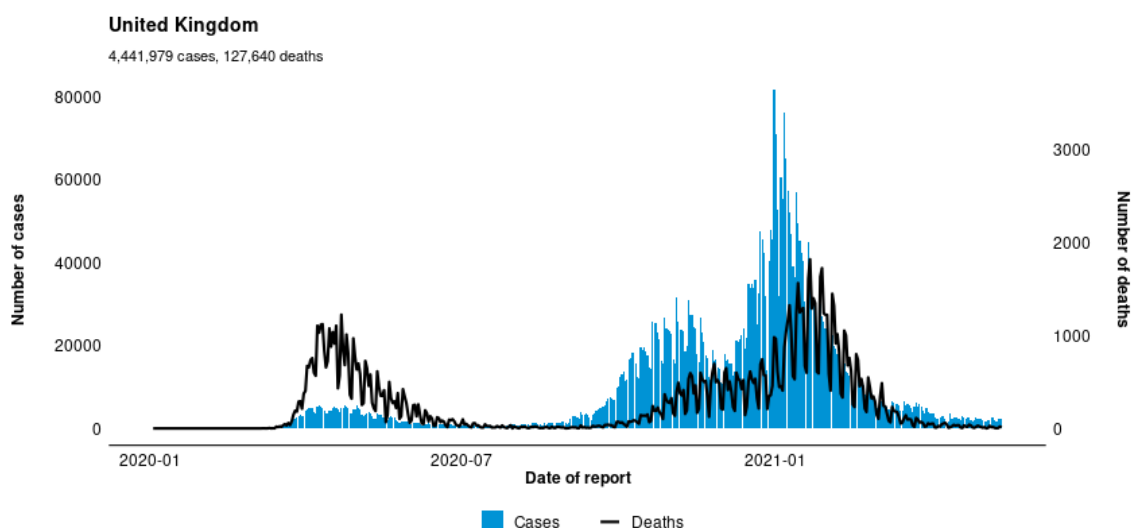
画像 1：ロンドン市内のパブ
出所：2020 年 10 月 19 日筆者撮影

本コラムでは、英国や日本のメディアなどですでに発表されているさまざまな情報源から、COVID-19 の感染状況に応じた英国政府の対応と、パブなど飲食店をめぐる英国政府などによる支援を時系列で整理する。英国におけるパブは、一部に大手チェーンや大手ビールメーカーの傘下に入るものもあるが、多くは独立した中小・小規模企業である。COVID-19 の感染拡大をめぐる英国政府によるパブなど飲食店の支援施策を整理することは、英国文化の象徴であるパブの中小・小規模企業としての持続的な経営を深く研究していくための重要な資料となる。

2. 2020 年 3 月～7 月

COVID-19 への初動対応 CJRS、SD、Eat Out To Help Out

COVID-19 は、その存在が国際的に認知された当初から、欧州の各国にて猛威を振っていた。2020 年 3 月 16 日に英国政府は、COVID-19 の 1 日あたり新規感染者数が増加してきたことを受け、重要ではない接触や旅行を中止するよう呼びかけ、また 23 日から英国全土にロックダウンの措置をとり、さまざまな規制を課した。パブなど飲食店に対しては、3 月 20 日から閉店するよう要請された（ただしテイクアウトは可）⁴。政府はその要請に見合う支援として、テナントなどの家賃は補償しなかったが、企業規模、さらに営利・非営利の分類に関係なく、事業者が雇用を保持するすべての労働者を対象に、未就労時間部分の基本給の支払いに対する支援が「歴史上初めて」なされた⁵。この賃金支払いをめぐる支援策は、CJRS（Coronavirus Job Retention Scheme）と呼ばれ、休業者については 3 月 1 日に遡って未就労時間部分の基本給の 80%（月 2500 ポンドを上限）が補償された⁶。



表：英国における COVID-19 の感染状況（2021 年 5 月 13 日現在）

注：WHO ホームページから転載（<https://worldhealthorg.shinyapps.io/covid/>）

1回目となるロックダウンの期間は当初3か月を想定していたが、2020年5月13日から、すでにとられていた緩和の措置に加えて、さらに7月までの1か月おきの3つのステップにわたる追加的緩和の措置がとられた。2020年6月中旬あたりからCOVID-19の1日あたり新規感染者数が1000人を下回る日が続き、2020年7月4日から、イングランドでのパブなど飲食店の営業再開が認められた。しかしながら、COVID-19の感染拡大を防止するために、ソーシャル・ディスタンス（SD：社会的距離）を確保するために、パブでの立ち飲みは禁止され、テーブルを確保し座席に着席しなければならなかった。このSDは、当初2メートルと設定されていた。しかし、BBPAは2020年6月に、SDが2メートルであればイングランドのパブの3分の1しか営業再開できないが、1メートルとなれば75%の営業が再開できるため、政府にルールの見直しを求めた。英国首相は、こうした声に押されるかたちで、最終的に6月23日の英議会でSDを1メートルに変更した⁷。パブの業界団体の発した声が政府を動かしたのである。

2020年7月10日に、英国政府は国内旅行の活性に加えてパブなどでの外食を支援するために、特別支援予算としてMini Budget 2000を組み、パブなど飲食店での割引制度を導入した⁸。これはEat Out To Help Outと呼ばれる消費底上げ支援であり、2020年8月3日から31日までの間に、英国政府が指定するスキームに登録した飲食店に限り、毎週月・火・水曜日に行う食事代金の半額を政府が負担するというものである。上限は割引率で50%（1人あたり10ポンドまで）とされたが、食べ物とノンアルコール飲料が対象で、大人と子ども両方が対象となり、割引を受けられる回数に制限はないなどの特長があった。

3. 2020年9月～2021年1月

ローカルレベルと、2度目のナショナル・ロックダウン

英国国内では、2020年7月から8月にかけて、COVID-19の新規感染者数は抑制された状態がしばらく続いてきたが、2020年9月に入ってから、COVID-19の1日あたり新規感染者数が急増し、10月上旬には1万人を、さらに同月中旬には1万5000人を超えた。そこで英国政府は、2020年10月14日から、イングランドで地域ごとに感染リスクを3段階に分ける新たな警戒システム（ローカル・ロックダウン）を導入した⁹。「中（medium）」を意味するTier1では、パブなど飲食店は午後10時以降の営業が禁止され（午前5時までで、デリバリーは午後10時以降も可）、「高（high）」を意味するTier2でTier1の内容に加えて屋内で同じ世帯以外の人との接触が禁止され、さらにTier3の「最高（very high）」になると、Tier1とTier2の内容に加えて、パブなどは閉鎖された。10月14日の時点でTier3に指定されたのは英国中部の都市、マンチェスターのみと限定的であった。政府は、いずれかのレベルに指定された地域で、休業命令により閉鎖した事業者に対して、入居する物件の課税評価額ごとにローカル・カウンスル（Local Council）¹⁰を通じて助成金（LRSG：Local

Restrictions Support Grant) を給付した。また、政府は、Tier 2 もしくは Tier 3 レベル対象地域で、閉鎖対象とはなっていないものの、ロックダウンにより打撃を受けた事業者に対して、助成金の制度を設けた。この要件はそれぞれのローカル・カウンシルが独自に設定できるとされた¹¹。

しかし英国では COVID-19 の新規感染が食い止められず、2020 年 10 月下旬には新規感染者数は 2 万人を超えた。英国政府は、11 月 5 日から 12 月 2 日までの間にロックダウンの措置をとった。これが国家レベルとしての 2 度目のロックダウンであった。2 度目のロックダウンでは、パブなど飲食店はテイクアウトや宅配を除き、再び営業が原則禁じられた。一時帰休従業員の給与給付制度 (CJRS) は、10 月 31 日で終了予定であったが、2 度目のロックダウンを受けて 12 月まで延長されることになった。政府は、この期間中に、イングランド全域を対象にした休業命令で閉鎖した事業者に、ローカル・カウンシルを通じて、入居する物件の課税評価額ごとに引き続き助成金 (LRSG) の給付を行った。Tier 2、Tier 3 地域の、主食類を提供しないパブに対しては、上記に加え、クリスマス繁忙期の損失補填として 1 回に限った給付を行った。さらに政府は、ローカル・カウンシルの裁量で給付する追加的助成金「Additional Restrictions Grant (ARG)」の財源を交付した。

英国政府は、11 月 26 日にこれまでの 3 段階の警戒レベルをより厳格化した新しい警戒レベルシステム (new tier system) に 12 月 5 日から移行すると発表した。この新しい警戒レベルシステムのもとでは、Tier2 では、他世帯の人が屋内で会うのは不可、飲食店で同じテーブルを囲めるのはビジネス・ミーティングと屋内テーブル (最大 6 人) を除き、同一世帯の最大 6 人まで、営業は午後 10 時から 11 時に緩和されるがラストオーダーは午後 10 時とされた。Tier3 では、飲食店は店内での飲食は不可でテイクアウトのみとされた。

こうした政府による一連の支援との因果関係は必ずしも定かではないが、12 月上旬には新規感染者数は 1 万 5000 人まで減少した。しかし 2 度目のロックダウン解除後に感染者数が下げ止まりし、一転して増加に転じたことから、英国政府は、12 月 16 日に、ロンドン全域ならびに隣接する地域の一部の警戒レベルを「高」の Tier2 から「最高」の Tier3 に引き上げた。Tier3 に指定された地域のパブは、テイクアウトやデリバリーを除いた営業が禁止された。しかしそれでも英国内の新規感染者数の増加に歯止めがかからず、12 月下旬には感染者数は 2 万 5000 人を超え、この時点で、新型コロナウイルスの変異株が関連しているとみられた。英国首相は 12 月 19 日の記者会見で 3 段階のローカル・ロックダウンに新たに 4 段階目となる Tier4 の「自宅待機」(Stay at Home) を導入し、12 月 20 日から、ロンドン全域など新規感染者数が急増していたイングランド南東部を中心に多数の自治体に適用した。規制はこれまでのなかでもっとも厳しく、生活必需品以外の小売店は閉鎖、Tier4 以外の地域との往来も禁止するとした¹²。英国政府は当初、英国の代表的な祝い事の 1 つであるクリスマス時期にロックダウンの規制緩和を構想していたが、感染拡大を受けて Tier4 指定地域は規制緩和を中止し、それ以外の指定地域でも緩和は 25 日のクリスマス当日のみとした。英国首相は、「これがどれだけ『がっかりする』知らせか承知している」が、「ほかに選択肢

はないと思う」と述べた¹³。英国での新規感染者数はその後もうなぎ上りに急増し、12月未から1月頭にかけて6万人超を記録したことを受け、英国政府は、新年早々に、2021年1月5日から2月半ばまでを目途とし、3度目のロックダウンに移行すると発表した。英国文化の象徴であるパブは、クリスマスや年越しと合わせて、英国の長くて暗い冬のように、静まり返り、冬を越すのをじっと待たなければならなかった。

4. 2021年2月～5月

ロックダウン緩和のロードマップとパブの新しいかたち

英国ではワクチン接種が世界的にも早い時期となる12月8日から開始され、年明けには明るい兆しが見えてきた。2021年2月13日には1回目の接種を終えた住民が1500万人を突破した。70歳以上の90%以上が接種を終え、計画どおりに進んでいった。新規感染者数も、2月には3度目のロックダウンの効果もあって、1万人前後にまで減少した。こうしたことを受けて、英国政府は2月22日にイングランドでのロックダウンの緩和のロードマップを含むCOVID-19 Response-Spring 2021を公表した。このロードマップは、具体的には、3月8日から第1段階として学校を再開し、その後、少なくとも5週間ごと間隔をあけて4月12日に第2段階の緩和がなされ、飲食店の営業が屋外限定ではあるが再開が可能となった。英国首相は、「私たちの努力が報われていることは明らかなです。(中略、筆者による)私もパブへ行き、慎重に、でも確実にビールジョッキを口に運ぶ」と発言した¹⁴。

2021年4月12日以降、筆者が英国ロンドンの市街地を歩いていると、集客がある程度可能なガーデンを保有するパブのいくつかでは、営業が屋外限定であるとは言え、週末になると多くの顧客で賑わっていた。パブでは、テーブルを確保し、椅子に座ったまま、スマートフォンでのアプリ(クレジットカード決済)での注文が主流となるなど(アプリやカード決済に対応しにくい顧客は、椅子に座って店員に直接口頭でも注文が可能)、新しい営業スタイルとなった。パブの存続は、企業家や従業員はかたちを変えてでも存続していこうとするその堅忍不拔な姿勢に



画像1：オックスフォード市内のパブ
出所：2021年4月23日筆者撮影

よるところが大きいであろう。同時に、ロックダウンなどにもなう営業規制中に、従業員の休業補償や助成金、消費底上げ支援など、パブなど飲食店を存続させるためにさまざまな観点から政府が支援を展開させたことで、パブがこれらの支援を活用することができる環境にあった点は、パブなど飲食店の持続可能な経営に貢献したという点で積極的に評価で

きるであろう。

英国政府が2021年2月22日に公表したロードマップによれば、このままCOVID-19をめぐる状況が順調に進めば、5月17日に3度目ロックダウンの第3段階となる緩和がなされる見込みである。この段階では、パブなど飲食店では、着席したうえでの注文かつ飲食の義務は継続されるものの、施設の屋内営業が許可される。そして、早くも6月21日には、最終段階となる第4段階を迎え、SDにかんする規制の解除などが見込まれており、事実上の経済全面再開となる予定である。パブは、社会の要請にともないそのかたちを変えていくかもしれない。カウンター越しでの注文、また立ち飲みなど、パブでよく見られた「普通の」景色を再び見ることができるとかは定かではない。しかし、パブを経営する企業家やパブで働く従業員、パブを愛する消費者、パブに商品を供給するサプライヤー、そしてパブを持続させようとする政府など、英国社会のさまざまな構成者がパブをめぐる手を取り合い、パブの伝統と文化を守ってきた。そうしてパブは、英国の伝統と文化の象徴となってきたし、その点が今後も不変であることに誰も疑う余地はないであろう。



画像 1：ロンドン市内の
パブ入口に貼られた閉店
の案内

出所：2021年4月23日
筆者撮影

脚注

- ¹ <https://beerandpub.com/statistics/pub-numbers/> (2021年5月11日閲覧)
- ² Kerridge, Tom (2020) "Supporting Pubs," *The Good Beer Guide 2021*, CAMRA, p.5
- ³ <https://www.morningadvertiser.co.uk/Article/2020/12/09/How-many-pubs-closed-in-2020> (2021年5月11日閲覧)
- ⁴ BBC オンライン <https://www.bbc.co.uk/news/uk-56491532> ならびに朝日新聞オンライン <https://www.asahi.com/articles/ASN7936QJN75UHBI01Q.html> (2021年4月25日閲覧)
- ⁵ 日本経済新聞オンライン <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO57058320R20C20A3000000/> (2021年4月24日閲覧)
- ⁶ 政府は8月以降、CJRSの政府負担割合を段階的に削減しており、10月の政府負担割合は上限月1,875ポンド、給与の60%とした。
- ⁷ 世界保健機関 (WHO) の推奨は「少なくとも1メートル」であり、当時すでに飲食業の営業を再開していたフランスやイタリアなども1メートルのSDを採用したが、COVID-19の感染拡大が深刻化していた英国では当初慎重な姿勢を示した。英国政府ホームページ

<https://www.gov.uk/government/publications/review-of-two-metre-social-distancing-guidance/review-of-two-metre-social-distancing-guidanc> (2021年5月11日閲覧) ならびに朝日新聞オンライン

<https://www.asahi.com/articles/ASN7936QJN75UHBI01Q.html> (2021年4月25日閲覧)

⁸ <https://www.gov.uk/guidance/get-a-discount-with-the-eat-out-to-help-out-scheme> (2021年5月11日閲覧) ただし、筆者がこのコラムを執筆するために調べた時点ですらにこの制度は終了しており、どのような条件で事業者がこのスキームに登録できるかどうかは確認することができなかった。

⁹ イングランド以外では、北アイルランド自治政府が10月16日から4週間、ウェールズ自治政府が10月23日から11月9日まで、独自のロックダウンを施行した。

¹⁰ ローカル・カウンスルは地方議会のことであるが、英国においては基礎地方公共団体 (Local Authorities: LA) の典型とされ、LAはローカル・カウンスルと同義でもちいられることがある。

¹¹ 詳細は、JETRO ロンドン事務所「新型コロナウイルス感染症に対する英国政府の主な企業・雇用関連対策」(2020年12月23日)を参照のこと。

¹² イングランド以外では、北アイルランド自治政府が12月26日から6週間、ウェールズ自治政府が12月20日から、独自のロックダウンを施行した。

¹³ <https://www.bbc.com/japanese/55382567> (2021年5月11日閲覧)

¹⁴ 朝日新聞オンライン <https://www.asahi.com/articles/ASP476RCRP47ULBJ00H.html> (2021年4月25日閲覧)